

第13回 敬語詁法

次の各傍線部に含まれる敬語について、敬語の種類、誰から誰への敬意か答え、傍線部を現代語訳し、さらに、普通語を使って傍線部を書き換えてください。

「翁が天人に」「ここに①おはするかぐや姫は重き病をしたまへば……」と②申せば、……

① (尊) (翁) ↓かぐや姫)「いらっしやる」 (ある、ある) ()

② (謙) (書き手) ↓天人) ()「申し上げます」 (言へば) ()

この殿、内裏に参り給ひて、殿上に③さぶらひ給ふを、帝、④御覧じて……

③ (謙) (書き手) ↓帝) ()「控え申し上げます」 (ひかへ、をり) ()

④ (尊) (書き手) ↓帝) ()「御覧になって」 (見て) ()

「女房が光源氏に」「いでや、「姫君は」よろずおぼし知らぬさまに⑤大殿籠り入りて」など⑥聞こゆる折りしもあなたより来る音して、……

⑤ (尊) (女房) ↓姫君) ()「おやすみになって」 (寝入りて) ()

⑥ (謙) (書き手) ↓源氏) ()「申し上げます」 (言ふ) ()

帰り参りてこの由を⑦奏す。

⑦ (謙) (書き手) ↓帝) ()「(帝に) 申し上げます」 (言ふ) ()

この御子、三つになり給ふ年、御袴着のこと、一の宮の⑧奉りしに劣らず。

⑧ (尊) (書き手) ↓一の宮) ()「お召しになった」 (着し) ()

「隨身が源氏に」「かの白く咲けるをなむ夕顔と⑨いひ侍る」

⑨ (丁) (隨身) ↓源氏) ()「言います」 (言ふ) ()

「六十にあまる年、珍らかなる物を⑩見給へつる」

⑩ (謙 or 丁) (話し手) ↓聞き手) ()「見ましたよ」 (見つる) ()

「女房が姫君の父宮に」「姫は」夜昼、「尼君を」⑪恋ひ聞こえ給ふに、はかなきもの(＝ちよつとしたもの)も⑫聞こし召さず」とて……

⑪ (謙) (女房) ↓尼君) ()「恋しく思い申し上げます」 (恋ひ) ()

⑫ (尊) (女房) ↓姫君) ()「お召し上がりにならない」 (食はず) ()